

持続可能な食の調達と循環型社会の実現

▶ 持続可能な調達の実現に向けたサプライチェーンマネジメント

グループ目標 (KPI)	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標	2030年度目標
ニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドラインに準拠したサプライヤーやOEM先からの調達率	賛同率89% (国内最重要先)	賛同率100% (国内最重要先)	賛同率100% (国内・海外最重要先)	調達率100%
主要原材料と重要サプライヤーへのESGデューデリジェンス実施率	国内畜産25% (最重要先)	国内畜産50% (最重要先)	国内畜産・水産100% (最重要先)	100%

ニチレイグループでは、事業基盤であるサプライチェーンの持続可能性の取り組みを進めています。「責任ある企業行動のためのOECDデュー・ディリジェンス・ガイダンス」を参考に、当社の事業活動が労働者、人権、環境、贈賄、消費者およびコーポレートガバナンスに負の影響をもたらす可能性があることを認識したうえで、当社事業やサプライチェーンおよびその他のビジネス上の関係に関連する負の影響を回避し、それらに対処するための活動を進めています。

- ニチレイグループ持続可能な調達方針 <https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/supply.html>
- ニチレイグループサプライヤー行動規範 <https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/regulation.html>
- ニチレイグループサプライヤーガイドライン <https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/guideline.html>

サプライヤー ESG アンケートの実施

当社は2022年4月に「ニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドライン」を制定しました。2022年度は国内のサプライヤーの皆様に対し、サプライヤー行動規範・ガイドラインへのご賛同と、セルフアセスメント質問票へのご回答を依頼する「サプライヤー ESG アンケート」を実施しました。

実施したアンケートに対し、89%のサプライヤーから回答があり、そのすべてからご賛同をいただきました。残りの11%のサプライヤーに対しても引き続きご回答を継続しています。アンケートの回答結果から、ESGに関する負の影響が懸念された数社のサプライヤーに対してはコミュニケーションを実施し、問題がなかったことを確認しています。

今後は、アンケートの対象を海外サプライヤーまで拡大するとともに、サプライヤーに当社の持続可能な調達への取り組みやサプライヤー行動規範・ガイドラインへのご理解を深めていただくための説明会を実施するなどし、さらにサプライヤーとのコミュニケーションを深めていきます。

■ 2022年度に実施したサプライヤー ESG アンケート

対象	ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュ、ニチレイロジグループ、ニチレイバイオサイエンスの国内サプライヤー。対象先の選定にあたっては、各社における取引の重要性(取引量等)などを加味し、取引金額で約50%をカバー。
内容	サプライヤー行動規範・ガイドラインへの賛同を求めるとともに、セルフアセスメント質問票への回答を依頼
設問の設計	サプライヤー行動規範・ガイドラインに沿い、各サプライヤーの取り組み状況を確認するための設問で、「法令遵守・倫理的行動」「人権・労働」「安全衛生」「環境」「マネジメント」「サステナビリティに関わるコーポレートガバナンス」からなる。作成にあたっては、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが作成した「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット(第1版)」を参照。
回答率	89% (賛同率も同じ)

畜産物と水産物のサプライヤーに対する人権デューデリジェンスの実施

当社グループの事業活動において上位の調達量を占める畜産物と水産物について、サプライヤーに対する人権デューデリジェンスの取り組みを開始しました。実施にあたっては、お取引の重要性および国別・産業別の人権リスクを考慮のうえ、優先順位を決めています。

■ 2022-2024年度の人権デューデリジェンス実施計画

	2022年度実績	2023年度計画	2024年度計画
対象	畜産サプライヤー(国内チキン)	畜産サプライヤー(国内) 水産サプライヤー(海外)	畜産サプライヤー(国内) 水産サプライヤー(海外・国内)

▶ 持続可能な水産物とパーム油の調達

グループ目標 (KPI)	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標	2030年度目標
水産事業における水産物の持続可能な水産物調達ガイドラインに準じた調達率	91%	95%	100%	100%
うち、MSC・ASC 認証品等のグローバル水産物認証品比率	19%	19%	32%	50%
持続可能なパーム油 (RSPO 認証油) の調達比率	100% (ブックアンドクレーム)	100% (ブックアンドクレーム)	100% (ブックアンドクレーム)	100% (認証油)

持続可能な水産物の調達  [持続可能な水産物調達ガイドライン](https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/marine_products_guideline.html)
https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/marine_products_guideline.html

■ 持続可能な水産物調達ガイドラインの制定

水産物はニチレイグループの事業活動を支える重要な資源です。近年、気候変動、乱獲や混獲による生態系への影響、人工的な養殖場のための森林破壊等の生息域破壊、また漁業関係者への人権侵害などの問題が指摘されています。

2023年4月、ニチレイグループではサプライチェーンにおける持続可能な水産物の課題解決に取り組み、サプライヤーやステークホルダーとともに持続可能な社会の実現を目指すため、「ニチレイグループ持続可能な水産物調達ガイドライン」を制定するとともに、グループマテリアリティの目標として新たにKPIを設定しました。

■ ニチレイフレッシュのMSC / ASC 認証取得水産物

MSC 【認証番号】 MSC-C-52165	カナダホッキガイ、カラフトシヤモ、カレイ類(アラスカアブラガレイ、ウマガレイ、アブラガレイ、シムシユガレイ、コガネガレイ、カラスガレイ)、サケ類(キングサーモン、シロザケ、ギンザケ、カラフトマス、ベニザケ)、タイセイヨウニシン、アメリカケンサキイカ、マダラ、マガキ、トラバガニ、ズワイガニ、スケトウダラ、ホタテガイ、シマホッケ、アサリ、アラスカメヌケ	ASC 【認証番号】 ASC-C-01632	ブラックタイガー、パナメイエビ、マガキ、タイセイヨウサケ、ギンザケ、ニジマス
------------------------------	---	------------------------------	--

2023年6月時点

■ 社員食堂から始める「持続可能な水産物を食べよう!」活動

持続可能な食を次世代につなげる大切さについて従業員に知ってもらうため、従業員にとって身近な食の場である社員食堂での活動を始めました。ニチレイフレッシュがCoC認証[※]を取得し、調達販売しているASC認証のエビを本社の社員食堂メニューで提供しました。第2弾はMSC認証のあさりをメニュー化する予定です。

2023年度は本社(東京都)をはじめとした関東圏の拠点から取り組み、2024年度以降は関東圏以外のニチレイグループ社員食堂への導入を目指します。

※ 非認証の水産物の混入を防ぐための加工流通過程を管理する仕組み



持続可能なパーム油の調達  [持続可能なパーム油調達ガイドライン](https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/palm_oil_guideline.html)
https://www.nichirei.co.jp/sustainability/social/supplychain/palm_oil_guideline.html

■ 持続可能なパーム油調達ガイドラインの制定

ニチレイグループは、NDPE方針(No Deforestation, No Peat, No Exploitation = 森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ)を支持し、サプライヤーであるお取引先様とともに責任あるパーム油の調達に取り組むため、2023年4月に「持続可能なパーム油調達ガイドライン」を制定するとともに、グループマテリアリティの目標として新たにKPIを設定しました。

■ 持続可能なパーム油への取り組み

ニチレイグループは、2018年8月、持続可能なパーム油の生産と利用を促進する非営利組織、RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil: 持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟し製品に使用するパーム油を持続可能なパーム油にする取り組みを進めています。パーム油を使用しているニチレイフーズの食品工場(国内外の連結対象子会社)では、使用しているパーム油の全量(100%)に該当するRSPO 認証油クレジット(ブック&クレーム方式)を2018年から継続して購入しています。

2030年に向け、持続可能なパーム油(RSPO 認証油)の調達比率100%を目指し取り組みを進めていきます。



▶ サステナビリティ教育

グループ目標 (KPI)	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標	2030年度目標
サーキュラーエコノミーの実現に向けたSDGs教育プログラムの受講率	—	教育プログラムを開始	100% (役職者)	100% (全従業員)

ニチレイグループでは、サステナビリティ経営の加速に向け、経営層から全従業員まで、階層別の勉強会や教育研修プログラムを2022年度より実施しています。

2022～2024年度 階層別サステナビリティ研修計画

	2022年度	2023年度	2024年度
役員	取締役会メンバー 事業会社役員 → サステナビリティ勉強会 (6回開催)	→ サステナビリティ勉強会 (3回開催)	→ サステナビリティ勉強会 (必要に応じて開催)
役職者	部長層 グループリーダーおよびマネージャー層 →	→	SDGsマテリアリティ研修「One for Future」 →
新任役職者	→	→	→
新入社員	→ SDGs社会課題解決思考研修	→	→
全従業員	→ サステナビリティeラーニング (3回実施)	→ サステナビリティeラーニング (4回実施予定)	→ サステナビリティeラーニング
原材料調達担当者 (ニチレイフーズ・ニチレイフレッシュ)	→	→ 持続可能な調達 (実施予定)	→

経営層向け サステナビリティ勉強会

目的	最新のサステナビリティに関する情報や潮流を学び、経営への影響度を測り、財務・非財務両軸での経営戦略に活かす
対象	取締役会メンバー (社外取締役、社外監査役、事業会社の経営層、部長職は任意参加)

サステナビリティ経営、持続可能な調達、ビジネスと人権、気候変動、サーキュラーエコノミー、生物多様性、人財の多様性などのテーマについて、有識者の方に講演を依頼し、学びを深めています。

2022年度に開催したサステナビリティ勉強会

開催日	テーマ	講師	参加者数 (うち、取締役人数)	ニチレイ取締役出席率
第1回	2022年4月26日	企業が直面するサステナビリティ課題	(株)ニューラル代表取締役CEO 夫馬 賢治氏	124名 (6名) 60%
第2回	2022年5月24日	食料と輸送の未来	(株)ニューラル代表取締役CEO 夫馬 賢治氏	127名 (7名) 70%
第3回	2022年6月28日	持続可能な調達と人権課題	LRQAサステナビリティ (株) 代表取締役 雷田 秀実氏	139名 (8名) 80%
第4回	2022年8月23日	SDGsの重要性と企業が取り組む意義	SDGパートナーズ(有) 代表取締役CEO 田瀬 和夫氏	131名 (9名) 90%
第5回	2022年9月27日	サーキュラーエコノミーへのビジネス変革	アマタ(株) 田部 進一氏	140名 (10名) 100%
第6回	2023年1月24日	サプライチェーンで取り組む「人権」～今、企業に期待される人権デューデリジェンスとは～	NPO法人経済人コー円卓会議日本委員会 事務局長 石田 寛氏	154名 (10名) 100%

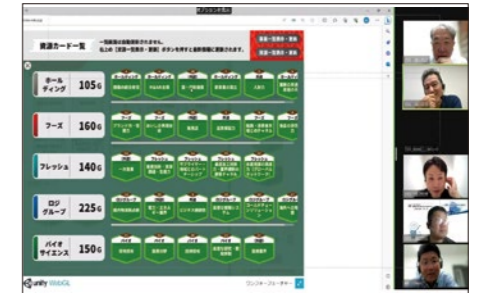
2023年度サステナビリティ勉強会 <https://nichirei.disclosure.site/ja/themes/178>

役職者向け

SDGsマテリアリティ研修「One for Future」

目的	ニチレイが目指すサステナビリティ経営を理解し、社会課題の解決を通じた社会的価値と経済的価値の両立の実現を疑似体験してもらうことで、サステナビリティ・マインドセットと行動変容を促すこと
対象	全役職者 (約1,300人)

ニチレイグループの役職者全員 (約1,300人) を対象とした研修を2023年8月から実施しています。グループの資産やマテリアリティなどを組み込んだ独自のオンラインビジネスカードゲーム「One for Future」を通じ、社会的価値と経済的価値の両立に向けての思考を深める研修となっています。各自が所属している事業会社とは別の事業会社の一員として1つのチームを組み、グループの強みや機能を使ってどのような社会課題解決ができるかを考えます。

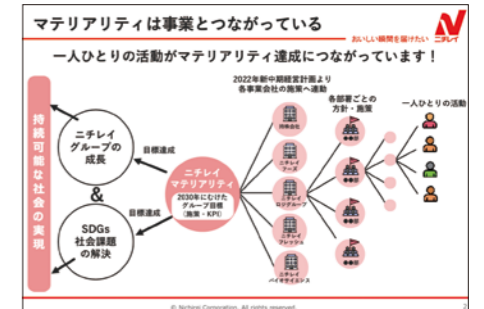


ニチレイ版オンラインビジネスカードゲーム「One for Future」

新入社員・新任役職者向け SDGs社会課題解決思考研修

目的	当社のサステナビリティ経営の方向性やマテリアリティとの関係を理解し、自分の業務との関連性やグループで解決できる社会課題について考えてもらいながら、社会課題解決思考を学んでもらうこと
対象	新入社員、新任役職者

ニチレイグループの機能や強みを使い、社会課題を解決しながら社会的価値と経済的価値を両立できる事業モデルについてチームで考えます。



研修資料 (抜粋)

全従業員向け サステナビリティeラーニング

目的	SDGsや当社事業活動に関するESGについての基礎知識の習得
対象	全従業員

SDGsや当社マテリアリティに関連するESG (環境、社会、人権、持続可能な食など) について、グローバルイベントの期間に運動させて実施しています。動画も使うことで、専門用語をわかりやすく学べるようにしています。

	eラーニング(テーマ)	グローバルイベント	受講率
2022年度	5月 サーキュラーエコノミー	5月22日 国際生物多様性の日	97.1%
	11月 SDGs全般	11月20日 世界子どもの日	93.8%
	12月 ビジネスと人権	12月10日 世界人権デー	93.9%
2023年度	6月 環境 (CO ₂ 排出量削減)	6月5日 世界環境デー	93.8%
	7月 環境 (地球温暖化)	7月7日 クールアースデー	93.1%
	9月 SDGs全般	9月25日を含む1週間 SDGs週間	—
	12月 ビジネスと人権	12月10日 世界人権デー	—

全従業員向け サステナビリティ推進ポータルサイト

目的	全従業員がアクセス可能な情報プラットフォーム (イントラネット)。グループのサステナビリティ活動やマテリアリティの進捗を公開するとともに、学びを深めたい個人のためのサステナビリティ・ESG関連コンテンツを掲載
対象	全従業員



サステナビリティ推進ポータルサイト

▶ 水資源・生物多様性・資源循環

水リスクと生物多様性の重要性評価の実施

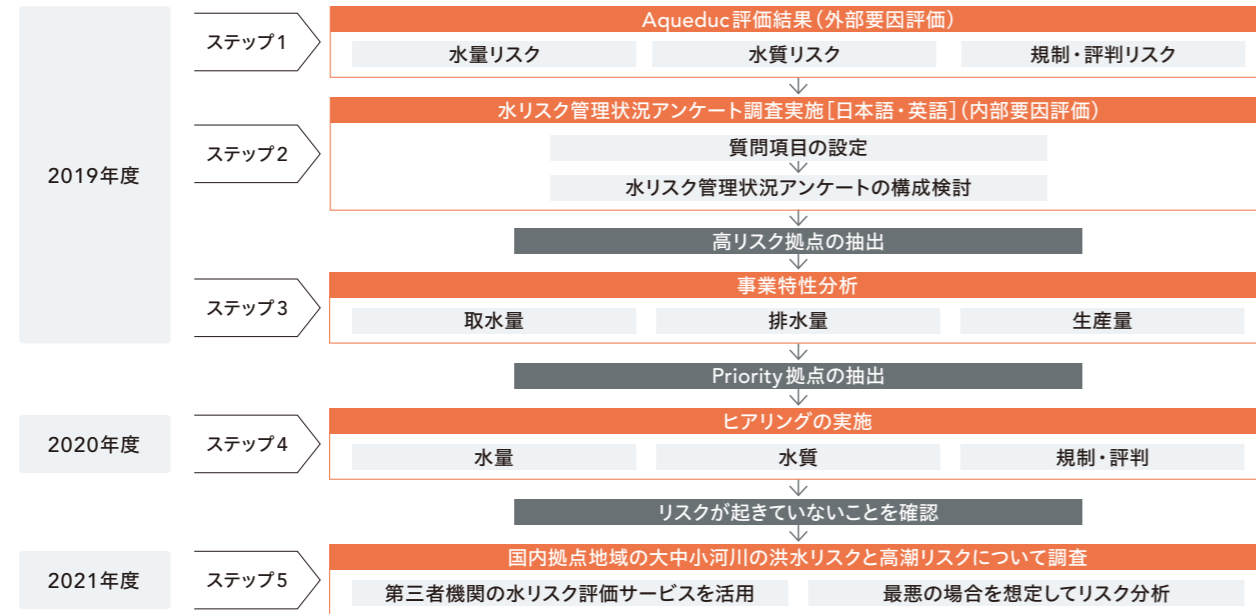
水資源保全への取り組み
<https://nichirei.disclosure.site/ja/themes/166>

ニチレイグループでは、持続可能なサプライチェーンの構築のため、原材料生産や事業運営に使用する水資源の重要性を認識し水資源保全に取り組んでいます。

2019年度から2021年度までは、グループ全拠点(国内海外:152拠点)で水リスクアセスメントを実施し、外部要因と内部要因の両面から水リスクが高い拠点を特定。2020年度は、水リスクが高いと特定された3拠点について実際にヒアリングを実施し、現時点において「水量、水質、規制・評判」の水リスクが起きていないことを確認しました。2021年度には、国内拠点における大型台風や豪雨などによる河川の洪水リスクと高潮リスクについて調査しました。

2022年度は、ニチレイグループが直接操業している国内133拠点について、生物多様性の重要性の高い地域に近接しているかを評価するとともに、近接している拠点については今後の事業活動の方向性を検討していくうえで参考にするため、重要性の根拠を整理しました。

水リスクと生物多様性の重要性評価



2022年度 ステップ6 生物多様性の重要性評価の実施

検討内容	評価ツール・レイヤー	基準
1. 生物多様性の重要性の評価 1.1. 以下のツール・レイヤー・基準を用いて、生物多様性の重要性が高い地域に近接しているかどうかを評価する	・IBAT: KBA (AZE, IBA, Other) ・IBAT: 保護地域(世界遺産、ラムサール条約湿地、IUCN 管理カテゴリ (Ia, Ib, II, III, IV))	拠点から半径5km圏内にKBAあるいは保護地域が存在する場合、重要性が高い地域に近接していると評価
2. 生物多様性の重要性の根拠整理 2.1. 当該地域における生物多様性の価値を示す情報として、当該地域の特徴および保護地域等に選定された基準を整理する 2.2. KBA®については、KBA選定のトリガー(引き金)となった種(トリガースpecies)について整理する		

<評価結果>

グループ全拠点のうち生物多様性の重要性が高い地域に隣接していたのは日本国内の拠点全体の約89%でした。これは、当社の事業特性上、沿岸地域での立地が多いことに起因していると推測されます。今後は、この結果の詳細な分析や現地訪問で実態調査を行うとともに、海外拠点についても生物多様性への当社グループの影響度や対策を検討していきます。

※ Key Biodiversity Area: 生物多様性の鍵になる重要な地域

資源循環に向けた取り組み

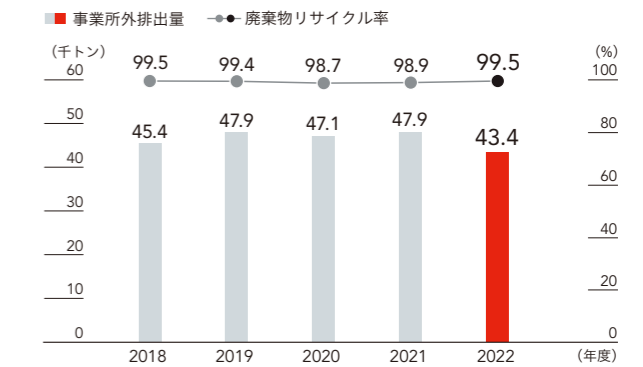
■ 廃棄物リサイクルの取り組み

ニチレイグループでは、事業活動により廃棄される産業廃棄物量と一般廃棄物量の削減への取り組みを進めています。廃棄物のリサイクル率についても99%の維持を掲げ、さまざまなリサイクル方法を取り入れ、活動しています。

全拠点における廃棄物リサイクル率

2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標	2030年度目標
99.5%	99%	99%	99%

廃棄物量とリサイクル率の推移



プラスチック削減への取り組み

■ 冷凍食品の容器包装におけるプラスチック削減

ニチレイフーズでは2006年度より家庭用冷凍食品の容器包装におけるプラスチック削減に取り組んでいます。施策実施前と比べ、直近では対象7商品(群)で200トン強の削減になっています。今後も、パッケージや容器包装の見直しによりプラスチック削減を進めるとともに、CO₂排出量削減に努めていきます。



これまでのプラスチック削減への取り組み

年度	対象アイテム	施策
2006年度	「今川焼」	トレー廃止
2009年度	「焼おにぎり10個入」	トレー廃止
2011年度	「本格炒め炒飯」	パッケージ薄肉化
2014年度	「焼おにぎり10個入」	パッケージ薄肉化
2015年度	「本格炒め炒飯」	パッケージ薄肉化(2回目)
2018年度	「えびピラフ」「チキンライス」	パッケージ薄肉化
2020年度	「えびとチーズのグラタン」「えびとチーズのドリア」	トレー薄肉化・手持ち部の幅を縮小
2021年度	「焼おにぎり」類	トレー廃止

アップサイクルの取り組み

■ 冷凍食品の規格外品を除菌ウエットティッシュへ

ニチレイフーズでは、冷凍食品の製造過程でどうしても出てしまう食品残渣や規格外品などの一部を、発酵・蒸留したエタノールを使用した除菌ウエットティッシュへアップサイクルする取り組みを進めています。

「今川焼」除菌ウエットティッシュができるまで

